

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：32667

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K10221

研究課題名（和文）人生の最終段階に向かう高齢患者に対する歯科診療指針の作成

研究課題名（英文）Making of a dental medical examination and treatment guideline to an old patient heading to a final stage in a life

研究代表者

菊谷 武（KIKUTANI, TAKESHI）

日本歯科大学・生命歯学部・教授

研究者番号：20214744

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：高齢者歯科医療の現場における回復の見込みのない患者に対して、どのような治療方針を立案すべきか検討するにあたり、起こりうる全身への損傷や傷害を与えると予想される状況に対して、歯科医療の介入の必要性を明示するDental R-mapを作成した。終末期がん患者に対する口腔管理の実態をまとめた。患者のステージに応じて、歯科治療、摂食支援、口腔衛生管理と介入の内容を変化させていた。終末期に向かって介入頻度が増した。典型的と思われる症例を題材に、ワークショップを開催し検討した。そのなかで、義歯製作にかかわる問題、歯を残すことが引き起こす問題が重要とされ、問題点の抽出を行い指針作成の資料とした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本邦では、後期高齢者の増加に加えて、これら高齢者の現在歯数が増加している。人生の最終段階に向かう者においては、認知機能や口腔諸器官の運動機能の低下から、咬合の維持や回復は、必ずしも咀嚼機能の維持・向上に繋がらない場合が多い。そればかりか、歯や補綴物が口腔内細菌の温床として存在したり、脱落により誤飲のリスクを持ったり、対顎の歯肉に噛み込んだりといった状態すら多く見受けられる。このため、う蝕や歯周病や歯の欠損に対する咬合の再構築を基本としているこれまでの歯科医療の指針は、人生の最終段階にある高齢者に対しては必ずしも適合しない。本研究では、これらの問題に対する指針作りに一定の情報を提案した。

研究成果の概要（英文）：In considering what kind of treatment plan should be formulated for patients who are unlikely to recover in the field of dental care for the elderly, a Dental R-map was developed to identify situations that could be expected to cause damage or injury to the whole body and to specify the need for dental intervention. The actual situation of oral management for terminally ill cancer patients was summarised. Depending on the stage of the patient, the interventions varied from dental treatment, feeding support and oral hygiene management. The frequency of interventions increased towards the end of life.

Workshops were held and discussions were held on cases that were considered typical. Problems related to denture production and problems caused by leaving teeth were considered important, and the problems were extracted and used as material for the development of guidelines.

研究分野：老年歯科医学

キーワード：人生の最終段階 歯科診療 診療指針

1. 研究開始当初の背景

歯科医療の目的は、咀嚼機能をはじめとする口腔機能の維持改善と、それに引き続く栄養状態の維持改善を通じた生活の質の向上である。口腔機能に支えられる“食べる”という営みは、人間の生命、人生、生活そのものとも言える。しかし、近年、人口の高齢化や回復の見込みのない運動機能障害や認知機能障害を有する人の増加から、口腔機能の改善が見込めないケースへの対応や人生の最終段階に向かおうとしている患者への歯科医療の対応が増加しており、従来の目標設定およびそれを達成させるための治療方針の策定が困難な場合が増加している。

歯科疾患の予防や咬合の維持・再構築は、QOL の維持や、生命予後をも延伸させると考えてきた。しかし、機能改善が望めない時期においては、上記の取り組みは、意味を持たない時期が訪れる。また、生命予後が確定した場合などには、歯科治療をしないことや、咬合の再構成をしないこともある。このような、機能改善を望めない時期における歯科診療のガイドラインは存在しない。医学会においては、伝統である延命最重視の考え方から多様な価値判断を許容する考え方へ発想を転換し、延命重視から自然な看取りまで、臨床現場において多様な選択肢を可能とするため、さまざまな指針や立場表明などが示されだしている。一方、歯科においては、十分とは言えない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、機能改善を望めない人生の最終段階に向かう高齢患者に対する歯科診療指針の作成に一定の情報を提供することである。

3. 研究の方法

(1) 機能改善が見込めなくなった患者に対するリスクマップの作成

機能改善が見込めなくなった患者において、今後起こりうるリスクを口腔そのものまたは、全身に損傷や傷害を与えると予想される状況をリスクととらえ、歯科医療の介入の必要性を明示することを目的に、横軸を予想される危害の重大さレベルを、縦軸に予想される発生頻度をマトリクス化して示すことで、歯科介入の必要性、緊急性の「見える化」を試み、リスク容認レベルを、A: 経過観察も含め対応を検討すべきリスク、B: 対応を考慮すべきリスク、C: 早急に対応すべきリスクに設定し個々の症例に合わせて検討した。

(2) がん終末期患者に対する口腔健康管理に関する調査

在宅歯科診療において口腔健康管理を開始した終末期がん患者 35 名(男性 21 名、女性 14 名)、年齢 51 歳から 91 歳である。そのうち、観察時点において診療継続していた者 5 名、診療中に患者または患者家族の希望により診療中止に至った患者 5 名を除く、死亡するまで管理を実施した 24 名(男性 16 名、女性 8 名)年齢 51 歳から 90 歳を調査対象とした。

口腔健康管理の内容について

期間中に実施した口腔健康管理の内容について、「歯科治療」「摂食指導」「口腔ケア」に分類し、訪問時に行ったすべての診療について調べた。

患者の全身状態について

がん患者の全身状態の変化については、患者の予後予測ツールにおいて身体機能の指標として用いられる Palliative Performance Scale(以下 PPS)を用いて分類した。すなわち、起居が可

能で意識が清明、経口摂取もほぼ正常な 60 以上の者、臥床しがちになり意識に混乱がみられ経口摂取量も減少しだす 50 以下 30 以上の者、常に臥床となり傾眠傾向となり数口程度しか経口摂取できなくなる 20 以下の者の 3 つの段階である。

(3) **機能改善が見込めなくなった患者に対するワークショップによる検討**

4. 研究成果

(1) **Dental R-map の作成**

機能改善が見込めなくなった患者において、今後起こりうるリスクを口腔そのものまたは、全身に損傷や傷害を与えると予想される状況をリスクととらえ、歯科医療の介入の必要性を明示する Dental R-map を作成した。これは、リスクマネジメントの観点を応用し、リスクマネジメントプロセスを「見える化」する手法である R-map 法を応用したものである。ここでは、横軸を予想される危害の重大さレベルを、縦軸に予想される発生頻度をマトリクス化して示すことで、歯科介入の必要性、緊急性の「見える化」を試み、リスク容認レベルを、A: 経過観察も含め対応を検討するべきリスク、B: 対応を考慮すべきリスク、C: 早急に対応すべきリスクに設定した(図1)。

(2) **がん終末期患者に対する口腔健康管理の実態調査**

患者の予後と診療期間、診療回数

診療開始してから患者が死亡するまでの期間の中央値は、51.5 日、最小 2 日、最長 338 日であった。10 日未満の者が 2 名、10 日以上 30 日以下のものが 5 名、31 日以上 90 日以下のものが、11 名で、多くは 90 日以下で死亡していた。各患者に最小 1 回から最大 24 回(中央値 5 回)訪問診療が実施された。

各身体機能と診療開始時期、診療期間と診療日数

身体機能を示す PSS60% 以上にて訪問開始したものは 10 名、PSS50 以下 30 以上にて開始した者は、4 名、20 以下において開始したものは、10 名であった。身体機能を示す PSS60% 以上の診療期間は、中央値 52(20 - 103)日、50 以下 30 以上は、中央値 26(11-35)日、20%以下は中央値 8 (2.25-12)日であった。診療日数は、PSS60% 以上は、中央値 3 (2 - 7)回、50 以下 30 以上は、中央値 2(1-3.5)、20%以下は中央値 1(1-2.5)回であった。PSS60% 以上の期間の 1 日当たりの訪問回数は、平均 0.06 日(最大ケースでは、69 日のうち 10 回、PSS50 以下 30 以上は、平均 0.09 日(最大ケースでは、34 日のうち 7 回受診)、PSS20% 以下は、平均 0.22 日(最大ケースでは、11 日期間のうち 5 回受診)であった(図2)。

のべ診療回数と内容

診療期間に実施した述べ診療回数は、PSS60% 以上は、65 回、50 以下 30 以上は 65 回、20 以下は 70 回であった。診療内容は、「歯科治療」「摂食指導」「口腔ケア」はそれぞれ、48 回、49 回、103 回であった。各身体機能と診療内容との間には、有意な関連が認められた。(自乗検定、 $p < 0.05$)

(図3)

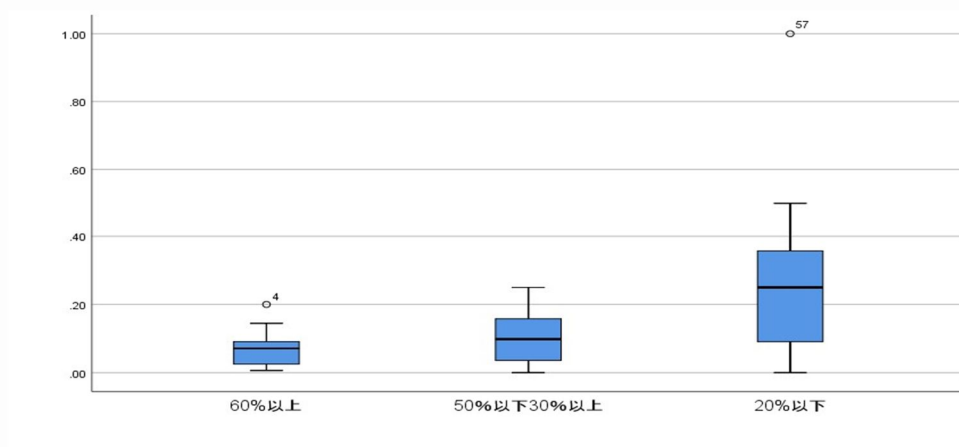
(3) **機能改善が見込めなくなった患者に対するワークショップによる検討**

高齢者歯科医療の現場における回復の見込みのない運動機能障害や認知機能障害により咀嚼障害を呈した患者に対して、どのような治療方針を立案するべきかという問題に対して、ワークショップの開催を行った。そのなかで、1) 義歯製作にかかわる問題、2) 歯を残すことが引き起こす問題が重要とされた。

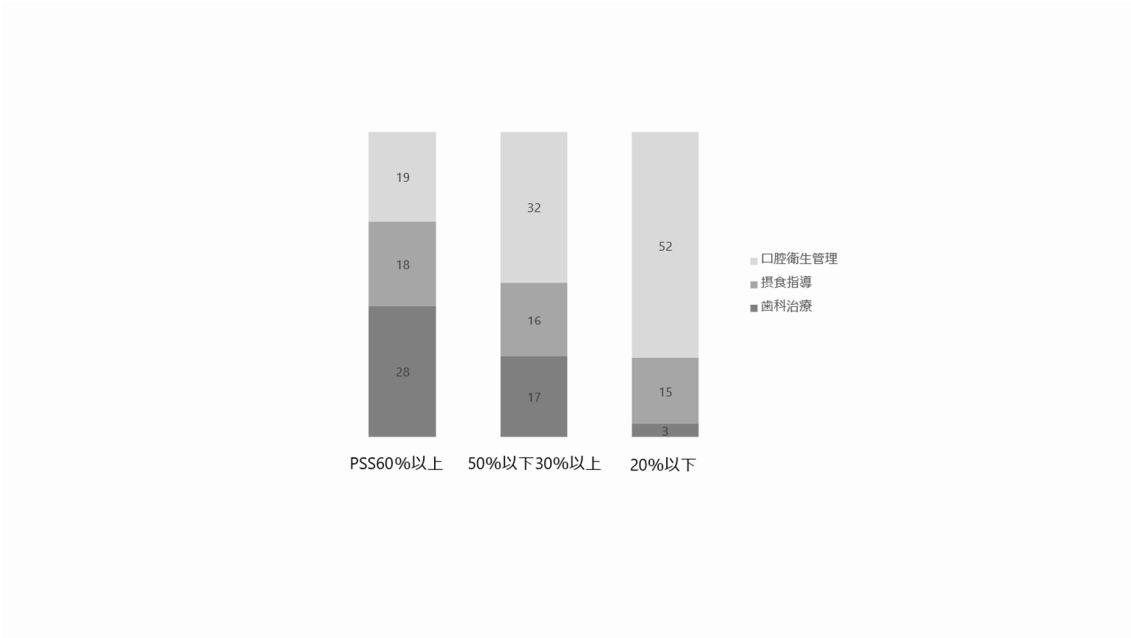
1. 重大さレベルの推定（無視または軽微な、中程度、重大または破局的）
2. 確率レベルの推定（低い、中程度、高い）
3. リスク容認レベルの推定
 - A：考慮不要なリスク
 - B：対応を考慮すべきリスク
 - C：必ず対応すべきリスク

		危害の程度		
		無視または軽微な	中程度	重大または破局的
発生頻度	低い	A	A	B
	中程度	A	B	C
	高い	B	C	C

(図1) 開発した Dental R-map



(図2) 身体機能(PSS)と平均診療回数との関連



(図3) 身体機能と診療内容の関連

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 前田 あずさ, 縄稚 久美子, 菊谷 武, 兒玉 直紀, 萬田 陽介, 窪木 拓男	4. 巻 41(2)
2. 論文標題 コロナ禍における老人介護施設での口腔栄養関連サービスに関するPBL演習	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岡山歯学会雑誌	6. 最初と最後の頁 21-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Maekawa K, Ikeuchi T, Shinkai S, Hirano H, Ryu M, Tamaki K, Kikutani T	4. 巻 22(12)
2. 論文標題 Impact of number of functional teeth on independence of Japanese older adults	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 1032-1039
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kikutani T, Takahashi N, Tohara T, Furuya H, Tanaka K, Hobo K, Isoda T, Fukui T	4. 巻 22(11)
2. 論文標題 Relationship between maintenance of occlusal support achieved by home-visit dental treatment and prognosis in home-care patients-a	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Geriatr Gerontol Int	6. 最初と最後の頁 976-981
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.14482	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Nanri H, Watanabe Y, Date H, Itoi A, Goto C, Ishikawa-Takata K, Kikutani T, Yoshida M	4. 巻 128(3)
2. 論文標題 Adherence to the food-based Japanese dietary guidelines and prevalence of poor oral health-related quality of life among older Japanese adults in the Kyoto-Kameoka study.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Br J Nutr	6. 最初と最後の頁 467-476
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0007114521003329	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka K, Kikutani T, Tohara T, Sato S, Ichikawa Y, Takahashi N	4. 巻 8(2)
2. 論文標題 Two case reports using a proposed oral risk assessment tool for older people near the end of life	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Clin Exp Dent Res	6. 最初と最後の頁 600-609
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cre2.566	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hirano H, Kikutani T, Nakajo K, Sato T, Furuya J, Minakuchi S, Iijima K	4. 巻 68(4)
2. 論文標題 Effect of an Oral Frailty Measures Program on Community-Dwelling Elderly People: A Cluster-Randomized Controlled Trial.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Gerontology	6. 最初と最後の頁 377-386
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000516968	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山田裕之, 田村文誉, 佐藤志穂, 花形哲夫, 平林正裕, 菊谷 武	4. 巻 35
2. 論文標題 成人期における口腔機能発達不全の実態調査	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 口腔リハビリ誌	6. 最初と最後の頁 12-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka K, Kikutani T, Tamura F, Sato S, Komagata Y, Shibasaki I, Tomioka K, Ichikawa Y, Shiobara Y, Sato T, Tohara T	4. 巻 68(4)
2. 論文標題 Problems experienced when swallowing solid oral dosage forms in older Japanese patients with dysphagia: A cross-sectional study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Special Care in Dentistry	6. 最初と最後の頁 377-386
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nagashima K, Kikutani T, Takahashi N, Kato Y, Sagawa K, Tohara T, Tamura F	4. 巻 13
2. 論文標題 Development of the Sakiika Transport Test: A Practical Screening Method for Patients with Oral-phase Dysphagia.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J Prosthodont Res	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2186/jdr.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kato Y, Kikutani T, Sagawa K, Tamura F	4. 巻 13
2. 論文標題 Association between masticatory movement and oral and physical function in healthy older women.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J Prosthodont Res	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2186/jpr.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kato Y, Kikutani T, Tohara T, Takahashi N, Tamura F	4. 巻 39
2. 論文標題 Masticatory movements and food textures in older patients with eating difficulties.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Gerodontology	6. 最初と最後の頁 90-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ger.12596	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe D, Kurotani K, Yoshida T, Nanri H, Watanabe Y, Date H, Itoi A, Goto C, Ishikawa-Takata K, Kikutani T, Yoshida M, Fujita H, Yamada Y, Kimura M; Kyoto-Kameoka Study Group	4. 巻 27 August 2021
2. 論文標題 Adherence to the food-based Japanese dietary guidelines and prevalence of poor oral health-related quality of life among older Japanese adults in the Kyoto-Kameoka study.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Br J Nutr	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0007114521003329	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shirobe M, Watanabe Y, Tanaka T, Hirano H, Kikutani T, Nakajo K, Sato T, Furuya J, Minakuchi S, Iijima K.	4. 巻 68(4)
2. 論文標題 Effect of an Oral Frailty Measures Program on Community-Dwelling Elderly People:A Cluster-Randomized Controlled Trial.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Gerontology	6. 最初と最後の頁 377-386
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000516968	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kikutani T, Ichikawa Y, Kitazume E, Mizukoshi A, Tohara T, Takahashi N, Tamura F, Matsutani M, Onishi J, Makino E	4. 巻 13(4)
2. 論文標題 COVID-19 Infection-Related Weight Loss Decreases Eating/Swallowing Function in Schizophrenic Patients.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nutrients	6. 最初と最後の頁 1113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/nu13041113	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nagashima K, Kikutani T, Miyashita T, Yajima Y, Tamura F	4. 巻 48(2)
2. 論文標題 Tongue muscle strength affects posterior pharyngeal wall advancement during swallowing: A cross-sectional study of outpatients with dysphagia.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J Oral Rehabil	6. 最初と最後の頁 169-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/joor.13120	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菊谷 武	4. 巻 104
2. 論文標題 【その絶食、ちょっと待った!食べるを支えるアプローチ】病院・介護施設での取り組み 医師でもできるミールラウンドのススメ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 治療	6. 最初と最後の頁 307-310
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋 賢晃, 戸原 雄, 田村 文誉, 菊谷 武	4. 巻 109
2. 論文標題 歯科界の潮流『今日の歯科治療』歯科訪問診療における新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への対策	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歯学	6. 最初と最後の頁 18-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊谷 武	4. 巻 139
2. 論文標題 口腔内環境を見える化する 口腔内細菌カウンタの臨床応用のすすめ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歯界展望	6. 最初と最後の頁 190-195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊谷 武, 大井 裕子	4. 巻 267
2. 論文標題 【実践!在宅摂食嚥下リハビリテーション診療】がん患者に対する終末期における食支援	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 MEDICAL REHABILITATION	6. 最初と最後の頁 25-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水口 俊介, 佐藤 裕二, 小玉 剛, 猪原 光, 小原 由紀, 金久 弥生, 菊谷 武, 菅 武雄, 花形 哲夫, 米山 武義, 渡邊 裕, 渡部 芳彦, 古屋 純一, 吉田 光由, 猪原 健, 河野 雅臣, 佐藤 蘭美, 宮本 雄気, 一般社団法人日本老年歯科医学会, 在宅歯科医療委員会, 一般社団法人日本在宅医療連合学会	4. 巻 36
2. 論文標題 歯科訪問診療における感染予防策の指針 2021年版	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 老年歯科医学	6. 最初と最後の頁 E4-E33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊谷 武	4. 巻 6
2. 論文標題 低下する栄養価をいかに補うか?嚥下調整食の栄養価アップの工夫 摂取量低減につながるハードル 摂食嚥下障害患者に見られる低栄養の問題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 栄養経営エキスパート	6. 最初と最後の頁 40-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊谷 武, 田中 公美[五十嵐]	4. 巻 21325
2. 論文標題 こんな患者さんが来たら? 食べられない。口腔内が痛い	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アポロニア	6. 最初と最後の頁 018-022
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka K, Tominaga T, Kikutani T, Sakuda T, Tomida H, Tanaka Y, Mizukoshi A, Ichikawa Y, Ozeki M, Takahashi N, Tamura F.	4. 巻 -
2. 論文標題 Oral status of older adults receiving home medical care: A cross-sectional study.	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Oral status of older adults receiving home medical care: A cross-sectional study.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.14917	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe D, Yoshida T, Watanabe Y, Yokoyama K, Yamada Y, Kikutani T, Yoshida M, Miyachi M, Kimura M.	4. 巻 -
2. 論文標題 Oral frailty is associated with mortality independently of physical and psychological frailty among older adults.	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Exp Gerontol.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.exger.2024.112446.	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takahashi N, Kikutani T, Ebihara K, Genkai S, Takahashi I, Kodama M, Machida R, Tohara T, Tamura	4. 巻 -
2. 論文標題 Factors associated with the maintenance in food texture for dependent older people with dysphagia living in nursing home - A retrospective cohort study.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Spec Care Dentist.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/scd.12937.	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okubo M, Morishita M, Odani T, Sakaguchi H, Kikutani T, Kokabu S.	4. 巻 -
2. 論文標題 The importance of taste on swallowing function.	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Front Nutr	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnut.2024.1356165	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大井裕子・菊谷武・田中公美	4. 巻 52
2. 論文標題 在宅療養中の終末期がん患者の食欲不振に対する症状緩和と栄養サポートにより経口摂取量が増加する可能性に関する考察	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本在宅医療連合学会	6. 最初と最後の頁 52-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富田浩子、菊谷武、田中裕子	4. 巻 36
2. 論文標題 終末期在宅がん患者に対する口腔健康管理	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本口腔リハビリテーション学会雑誌	6. 最初と最後の頁 17 - 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計37件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 加藤陽子, 中嶋絢子, 苅安誠, 菊谷武
2. 発表標題 発話音声解析による高齢者の口腔機能推定の可能性の検討
3. 学会等名 日本老年歯科医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 戸原雄, 高橋賢晃, 山田裕之, 田中祐子, 仲澤裕次郎, 田村文誉, 菊谷武
2. 発表標題 Withコロナ時代におけるVRを用いた新たな教育システムの構築の試み
3. 学会等名 摂食嚥下リハビリテーション学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 市川陽子, 菊谷武
2. 発表標題 脳血管疾患後の認知症高齢患者への介入により、経口摂取再開およびADL改善を認めた一例
3. 学会等名 日本老年歯科医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ichikawa Y, Kikutani T, Takahashi N, Tohara T, Furuya H, Tanaka K, Tamura F
2. 発表標題 Shear wave elastography for assessing hardness of the tongue and geniohyoid muscles: a study on healthy adults.
3. 学会等名 Asia Association for Disability and Oral Health
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 南ひかる, 花形哲夫, 笠井隆司, 山田幸, 田中公美, 菊谷武
2. 発表標題 無歯科医地区における在住高齢者の歯科受診に関する実態調査
3. 学会等名 日本老年歯科医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋賢晃, 菊谷 武, 戸原 雄, 保母妃美子, 磯田友子, 古屋裕康, 仲澤裕次郎, 田中公美, 宮下大志, 加藤陽子, 田村文誉
2. 発表標題 口腔機能低下症診断項目と摂食嚥下障害、フレイル、サルコペニアとの関連
3. 学会等名 日本老年歯科医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石川唯, 黒田直希, 佐藤志穂, 市川陽子, 北詰米里, 菊谷武
2. 発表標題 COVID-19感染後に経口摂取困難となり摂食嚥下リハビリテーションを実施した症例
3. 学会等名 日本老年歯科医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田中公美, 菊谷武, 高橋賢晃, 佐藤志穂, 市川陽子, 田中祐子, 富田浩子, 田村文誉
2. 発表標題 在宅療養高齢者における歯科訪問診療継続可否の予測因子の検討
3. 学会等名 日本老年歯科医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木治仁, 小野寺哲夫, 右田大三彦, 古川潤一郎, 和栗範幸, 河森一賢, 鈴木淳, 大木研一, 福内恵子, 河上清香, 飯島勝矢, 菊谷 武
2. 発表標題 東京都内某区で実施した後期高齢者歯科健診から見えてきたもの
3. 学会等名 老年歯科医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤瑞希, 高橋賢晃, 西村三美, 山田幸, 仲澤裕次郎, 駒形悠佳, 田村文誉, 菊谷武
2. 発表標題 歯科標榜のない急性期病院におけるシームレスな病診連携を確立するための取り組み
3. 学会等名 日本老年歯科医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菊谷武, 古屋裕康, 高橋賢晃, 戸原雄, 田中公美, 田村文誉
2. 発表標題 在宅診療下における義歯使用に関する因子
3. 学会等名 口腔リハビリテーション学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋育美, 菊谷武
2. 発表標題 多職種連携により常食摂取が可能となった症例
3. 学会等名 老年歯科医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 波多野朱里, 野村正子, 池田亜紀子, 水上美樹, 西澤加代子, 田中祐子, 富田浩子, 作田妙子, 菊谷武
2. 発表標題 都道府県別にみた介護保険施設等に勤務する歯科衛生士の地域分布と老年人口との関連
3. 学会等名 摂食嚥下リハビリテーション学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大井裕子, 森山久美, 菊谷武, 田中公美, 高橋賢晃, 加藤陽子, 富田浩子, 有友たかね
2. 発表標題 消化管通過障害によって食べられない終末期がん患者のまだ食べられる時期に食べたい希望をどう支えるか多職種で在宅療養中のがん患者の食べる希望を支えた症例の考察
3. 学会等名 Palliative Care Research
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大井裕子, 菊谷武, 田中公美, 加藤陽子, 森山久美
2. 発表標題 在宅医療におけるACP-現状と課題 現状確認ツールIMADOKOを用いたACPが在宅がん患者の終末期ケアに与える影響
3. 学会等名 在宅医療連合学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菊谷武
2. 発表標題 摂食嚥下障害における臨床倫理 在宅生活における食と臨床倫理
3. 学会等名 日本摂食嚥下リハビリテーション学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 加澤 佳奈, 石井 伸弥, 安井 良一, 金井 秀作, 栢下 淳, 菊谷 武, 岡村 仁, 石井 知行
2. 発表標題 地域在住高齢者の介護予防の取り組みの実態とニーズに関する調査
3. 学会等名 日本老年歯科医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菊谷武
2. 発表標題 口腔と全身の関連を考える「歯科と認知症」訪問現場で出会う認知症の人と家族
3. 学会等名 ジャパンオーラルヘルス学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菊谷武
2. 発表標題 食べるを支える, 食べられないを支える 歯科訪問診療を通じたかかわり
3. 学会等名 日本補綴歯科学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 縄雅 久美子, 前田 あずさ, 兒玉 直紀, 萬田 陽介, 菊谷 武, 窪木 拓男
2. 発表標題 老人介護施設における要介護高齢者や介護職員と歯学部生を電子的に繋いだPBL演習の取組
3. 学会等名 日本老年歯科医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木 治仁, 小野寺 哲夫, 右田 大三彦, 古川 潤一郎, 和栗 範幸, 河森 一賢, 鈴木 淳, 大木 研一, 福内 恵子, 河上 清香, 飯島 勝矢, 菊谷 武
2. 発表標題 東京都内某区で実施した後期高齢者歯科健診から見えてきたもの
3. 学会等名 日本老年歯科医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 前田 あずさ, 縄稚 久美子, 兒玉 直紀, 萬田 陽介, 菊谷 武, 窪木 拓男
2. 発表標題 コロナ禍における老人介護施設での口腔栄養関連サービスに関するPBL演習
3. 学会等名 日本補綴歯科学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鰐原 質子, 瀬木谷 彰仁, 高橋 賢晃, 元開 早絵, 新藤 広基, 柴崎 育美, 田辺 知宏, 菊谷 武
2. 発表標題 大腿骨骨折患者における口腔機能、嚥下機能、栄養状態に関する予備調査
3. 学会等名 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菊谷 武
2. 発表標題 在宅における生活期、そして、終末期における食支援
3. 学会等名 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 古屋 裕康, 田村 文誉, 菊谷 武
2. 発表標題 COVID-19と摂食嚥下リハビリテーション 嚥下障害症例へのオンライン診療の効果と展望
3. 学会等名 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 古屋 裕康, 田村 文誉, 田中 公美, 仲澤 裕次郎, 保母 妃美子, 磯田 友子, 田中 裕子, 山田 裕之, 町田 麗子, 戸原 雄, 菊谷 武
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症流行下におけるオンライン診療に対する意識調査
3. 学会等名 日本老年歯科医学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐川 敬一郎, 田村 文誉, 菊谷 武
2. 発表標題 舌接触補助床(PAP)の作製前にシリコーン印象材による即時PAPを用いた評価が有用であった症例
3. 学会等名 日本老年歯科医学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮下 大志, 菊谷 武, 永島 圭悟, 五十嵐 公美, 田村 文誉
2. 発表標題 嚥下障害患者における嚥下造影検査で観察される嚥下動態とサルコペニアとの関連性
3. 学会等名 日本老年歯科医学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 富田 浩子, 田中 祐子, 有友 たかね, 田中 公美, 佐藤 志穂, 佐々木 力丸, 菊谷 武, 大井 裕子
2. 発表標題 看取り期における在宅がん患者に対する地域連携による口腔健康管理
3. 学会等名 老年歯科医学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大井 裕子, 菊谷 武, 田中 公美, 高橋 賢晃, 富田 浩子, 有友 たかね, 森山 久美
2. 発表標題 在宅がん患者の看取りプロセスにおいて医師は歯科との連携をいつ、どのように提案するのか? 現状確認ツールIMADOKOを利用した医科歯科連携
3. 学会等名 日本在宅医療連合学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菊谷 武, 大井 裕子, 高橋 賢晃, 市川 陽子, 佐藤 志穂, 田中 公美, 富田 浩子, 有友 たかね, 森山 久美
2. 発表標題 在宅でのがん看取り支援における歯科訪問診療の役割
3. 学会等名 日本在宅医療連合学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森山 久美, 大井 裕子, 菊谷 武, 高橋 賢晃, 田中 公美, 富田 浩子, 有友 たかね
2. 発表標題 終末期がん患者の希望に添った食べる支援を実践するための食欲不振の背景にある要因調査と対応策
3. 学会等名 日本在宅医療連合学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菊谷 武
2. 発表標題 認知症の発症や予後に影響を及ぼす栄養・食事について考える 認知症の人への栄養支援 訪問現場で出会う認知症の人と家族
3. 学会等名 日本老年医学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菊谷 武
2. 発表標題 在宅療養患者の食べるを支える、食べられないを支える
3. 学会等名 日本摂食嚥下リハビリテーション学会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 菊谷 武
2. 発表標題 摂食嚥下障害患者における包括的評価と生活モデルとしての対応について
3. 学会等名 日本老年医学会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 菊谷 武
2. 発表標題 在宅療養を支える栄養口腔の情報共有の重要性
3. 学会等名 日本在宅医療連合学会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 菊谷 武
2. 発表標題 人生の最終段階に寄り添う歯科の可能性と課題
3. 学会等名 日本老年歯科医学会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 菊谷武, 田村文誉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 医歯薬出版株式会社	5. 総ページ数 136
3. 書名 2022年保険改定対応 かかりつけ歯科医のための口腔機能低下症入門	

1. 著者名 菊谷 武	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本医事新報社	5. 総ページ数 7
3. 書名 誤嚥性肺炎治療と予防の新常識	

1. 著者名 菊谷武	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ペリカン社	5. 総ページ数 4
3. 書名 大学学部調べ 歯学部 中高生のための学部選びガイド	

1. 著者名 菊谷 武 「ヘルスケア・レストラン」栄養企画委員会	4. 発行年 2021年
2. 出版社 株式会社 日本医療企画	5. 総ページ数 240
3. 書名 栄養士ダイアリー-2022	

1. 著者名 菊谷 武, 窪木 拓男, 鈴木 秀典	4. 発行年 2021年
2. 出版社 株式会社 永末書店	5. 総ページ数 96
3. 書名 「人生100年時代」のインプラント治療の考え方	

1. 著者名 上島順子, 江頭文江, 園井みか, 本川佳子, 菊谷 武	4. 発行年 2021年
2. 出版社 医歯薬出版株式会社	5. 総ページ数 176
3. 書名 摂食嚥下障害者の栄養アセスメント実践マニュアル	

1. 著者名 菊谷武	4. 発行年 2023年
2. 出版社 医歯薬出版	5. 総ページ数 111
3. 書名 高齢者のその口腔の診かた	

1. 著者名 菊谷武・小坂美樹・田村文誉	4. 発行年 2023年
2. 出版社 医歯薬出版	5. 総ページ数 271
3. 書名 訪問歯科ハンドブック	

1. 著者名 佐藤裕二、水口俊介、小笠原正、菊谷武	4. 発行年 2023年
2. 出版社 永末書店	5. 総ページ数 153
3. 書名 よくわかる訪問診療	

1. 著者名 山田晴子、赤堀博美、菊谷武	4. 発行年 2023年
2. 出版社 女子栄養大学出版	5. 総ページ数 176
3. 書名 かむ飲み込むが困難な人の食事	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高橋 賢晃 (Takahashi Noriaki) (20409246)	日本歯科大学・生命歯学部・講師 (32667)	
研究分担者	白野 美和 (丸谷美和) (Shirono Miwa) (60318558)	日本歯科大学・新潟生命歯学部・准教授 (32667)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------